

巻頭言	新たな門出を祝う	勝田 啓示	4
90周年に向けて	創立90周年を迎えるにあたり	原田 嘉中	5
特集 1	学長就任にあたって — 治道家の育成と学長プロジェクト —	原科 幸彦	7
特集 2	新年度開始にあたって 学びの楽しさを追求 人工知能を取り込む知能 サービスクリエイティブ人材育成の学部教育をさらに深化させます！ 学部名に込めた思い 世界に通用する本物のグローバル人材を創造中	太田 三郎 大矢野 潤 今井 重男 朝比奈 剛 宮崎 緑	14 14 16 18 20 22
特集 3	基盤教育の共通化、総コマ数3割削減 — 歴史的な教学改革を盛り込んだ答申を提出	内田 茂男	24
式典報告 1	未来の夢に向かつて — 平成28年度学部学位記授与式より		28
式典報告 2	希望に満ちた光の中で — 平成29年度学部入学式より		35
社会に巣立った卒業生	挑戦し続けた4年間 商大だからできたこと	川村 汐美 寺脇 智沙	50 51
同窓会活動	本部からの報告 卒業祝賀会開催(大学・同窓会共催) 第47期第3回常任理事会 第4回理事会 第47期第4回常任理事会 支部長会からの報告 宮崎県支部設立 新支部長・長野県支部 支部からの報告 同期会からの報告	広報・IT委員会	52 52 52 53 54 54 54 54 55 57

	同窓生寄稿 トレンギョラリーNAGANO 卒業生のお宿・お店紹介「旅館 玉屋」 ゴルフとの出会いに感謝 「質問されること」に対する弱さ	深澤 慶一 大滝 豊 大沼 四郎 中村 晃	63 61 61 61
	CUC経営者会議ニエス 千葉商科大学へのご入学に際しまして 4年間を振り返って 教育後援会新会員歓迎会・新入生保護者会の開催について チャレンジ応援奨学金給付学生の報告	宮下 律江 佐久間 茂夫 教育後援会 教育後援会	67 69 70 71
	教育後援会活動		72
	CUCの教育		74
	ゼミ紹介 三田村ゼミで行われている活動とは？ ニエス・イベント 平成28年度証券ゼミナル大会で三田村ゼミナルが優秀賞受賞 千葉県から東北の復興を応援!!「縁Joy東北2016」に参加しました 江戸川区と防災に関する基本協定を締結 商経学部2年片見公亮さん、パラ卓球ハンガリー大会男子団体金メダル!! 「CUCアライアンス企業」700社突破! メディアで紹介されたCUCの報道一覧	三田村 智	75
	CUCレポート キャリア支援センターニエス トビタテ！インターンシップCUCーベトナム視察のご報告ー 地域連携推進センターニエス 生涯学習、社会人教育支援事業について 地域貢献活動 文化団体・体育会所属各部等の活動状況 桜吹雪の初出勤	川瀬 功	82 80 80 79 78 77 77
	退任された教員より 桜吹雪の初出勤	鹿嶋 研之助	85 85
	著書紹介 「眠れなくなるほどおもしろい睡眠の話」 著者・関口雄祐	関口 雄祐	88 87 87 91 92 93
	▼同窓会支部事務局一覧 94 ▼編集後記 96		

新たな門出を祝う

勝田 啓示

千葉商科大学同窓会会長
(昭34商)



本館脇の桜並木が満開となり心を和ませてくれる。門出の季節にふさわしい風情である。本学は来年の創立90周年そして100周年に向けて厳しい学校間競争を勝ち抜き、魅力的で信頼される大学としてこれまで以上に社会的評価を高め、実学教育の成果が世界からも注目されるよう将来像を描き、さらなる改革の取り組みを進めている。

そんな中、今年も希望に満ち溢れた新入生を迎えた。新たな門出を心より祝う気持ちでいっぱいである。この大学で自分は何をしたのかを早く決めることをお勧めする。なぜなら、歴史と伝統の実学教育から部活、勉学を通じて人間形成、自己実現を図ることができ未来が見えてくるからである。在学中から人生の目標が決まっていることはどんなに強いことか。

時を同じくして同窓会にも新たな門出があった。九州に初めて県支部が発足した。同窓会32番目の宮崎県支部である。設立総会は22名の参加であったが、60名と常に

連絡が取れるようになっていく。素晴らしい熱意が伝わってくる。これに倣い九州の他の県でも準備が進んでいる。

また昭和50年代卒業生の同期会結成を促進している中で、昭和59年卒業生による同期会が発足する。同窓会も永年抱き続けた将来構想が実現しはじめている。

同窓会の役割は多くの人を集め、お互いの交流を深め、人脈をつくり、同窓会自体の基盤を強化し、母校に貢献することである。その同窓会も現在、必ずしも基盤が強化されているとは言えず、「如何に人を集め、維持会員を増やすか」を根柢におき、基盤強化を推進しているところである。

新年度に当たり、数々の門出を祝い、お互いにその目標の実現に努力し、100周年を迎える際はともに喜びを分かち合いたいものである。

挑戦し続けた4年間

川村 汐美

株式会社キタムラ勤務
平成29年3月サービスクリエーション部卒

大学を卒業して数ヶ月が経ち、寂しさとともに社会人として働くことを楽しみに毎日を過ごしています。

今振り返ると、私の大学生活は「とりあえずやってみよう」というスタンスで、様々なことに挑戦していたように思います。特にコミュ



ニティ・カフェプロジェクト、ゼミナールは、自分の成長を一番感じることができた活動でした。

プロジェクトでは部署リーダーとして活動し、初めて商品開発を行いました。何度も何度も試飲と分析を繰り返し、ようやくできた商品を実



際に販売しました。美味しいと言って買ってくださるお客様を見て、チームで何かをやり遂げることにやりが

いを感じました。

ゼミナールでは先生に声をかけていただき、「学生に新聞を読んでもらうための提案」を提言しました。自分自身が新聞を読む習慣がなかったため、ここまで深く新聞の在り方について考えたことは初めてでした。人前に立つことが苦手だった私にとって、200人以上の新聞社や広告関係者の方の前でのプレゼンテーションは本当に貴重な経験でした。

私は4月からフォトサービスクリエーションで働いています。不安はありつつも、自分の好きなことであり、強く望んでいた仕事なので、入社前から楽しみにしていました。同期と一緒にご飯を食べに行ったりもしています。先輩達のご指導のもと、早く仕事を覚え、将来は店長として活躍したいと思っています。



商大だからできたこと

寺脇智沙

袖ヶ浦市役所勤務
平成29年3月 商経学部経営学科卒

大学受験で思うような結果が出せず、諦めから入った大学。いつまでも後悔しては人生もつたいないと考え、「なんでもやってみよう!」を心に4年間過ごしました。具体的には、授業・資格試験・アルバイトに取り組みました。

2年生の時、石田先生の「就業力実践」を受講し、自分の将来について考えるきっかけになりました。また、飲食店でのアルバイト

を通して人とかわるることの重要性を学び、将来を考えた際に地元へ貢献したいという思いから、地方公務員を目指そうと思いました。いざ、公務員試験について調べてみると試験科目も多く、筆記試験を突破することも難題で、その後に面接試験もあり狭き門だということがわかりました。目標に向かって頑張ろうという気持ちと、また失敗したらどうしようという不安な気持ちがありました。就職活動をするには事前準備をしっかり行うことが重要だとわかり、まずエントリーシートから取り組んだものの自分のことなのに全く手がつけられず、キャリア支援センターに行きました。そこで出会った大村

さんに自己分析の仕方から教えてもらい、民間企業と公務員試験の両立に悩んだ時には話を聞いてもらい、最後まで頑張ることができました。

試験勉強は1人でやらなければならぬもので、何度もうけけそうになる時がありました。そんな時、いつも一緒に講義を受け、試験勉強を頑張った友人に悩みを聞いてもらい、たわいのない話をしてストレスを発散することができました。また、家族の支えがあったからこそ目標に向かって頑張ることができたのだと思います。この大学に入ったからこそ、目標を持って充実した生活を送ることができました。商大の感謝しています。

社会人になると大変なこともあるとは思いますが、挑戦する心を忘れず行動していきたいです。